障がいのある人に アイデアがつまった道具を

身体の不自由な人や高齢者が自立した日常生活を送るために使う補助道具「自助具」。自助具を製作するボランティア団体は関東にはほぼないといわれますが、その1つが八王子市にあります。

ラップを片手で引き出し、切ることができる「片手ラップカッター」

指のまひや拘縮（こうしゅく）があっても使用できるスプーンやフォーク

片手や少ない力で切れる爪切り。バリエーションも豊富

写真①

急須台

左・伴毅さん。中央・矢貝純雄さん「モノ作りのおかげで自分自身もボケない気がします」。右・菊池正行さん「道具のアフターフォローもやります」

2015年7月に立ち上げられたボランティアグループ・八王子自助具工房フレンズ。モノ作りが好きな地域の男性7人のメンバーが、オリジナルの自助具をボランティアで製作しています。利用者本人との打ち合わせから試作・調整を繰り返し、約1週間～2カ月程度で完成するそうです。市販の商品と異なり、障がいの程度や使う人の体の変化に合わせて道具を加工・製作できるのが手作りならでは。手軽な材料を利用してセミオーダーながら安価で、安全なものを目指しています。

～作る喜び 使う喜び～

「遠くの方が（自分に合う道具を）やっと見つけたと喜んでくださるのが何より嬉しいですね」と語るのは代表の伴毅さん。これまで作った自助具を見せてもらうと、シンプルながら、使う人の立場に立ったアイデアにあふれたものばかり。例えば「片手給茶機」（写真①）は、急須を持ち上げなくても、台の取っ手を持ち上げれば片手でお茶を注ぐことができます。自助具のおかげで、それまで人に頼まなければできなかったことが自分一人でできるようになることは想像を超える喜びをもたらすことでしょう。

～東京での自助具普及を目指して～

伴さんはかつて大阪勤務の時に自助具製作のボランティア活動に参加していた経験があります。当時、理学・作業療法の専門家や自助具作りの先輩からさまざまな知識と技術を学んでいました。2011年、八王子市に戻り住んだ伴さんはその経験を活かし、〝東京に自助具の普及を〟との思いから同市でフレンズ設立をしました。

しかし自助具製作のボランティア団体数はいまだ西高東低。関東以北では秋田にしかないという現状を伴さんは気にかけています。自助具の認知度を上げるため、地域イベントへの積極的参加など、1人でも多くの人に自助具が届くよう奔走する日々を続けています。

問い合わせは伴さん（電090・6554・0515）へ。